

会報
藤井寺市観光ボランティアの会

〒583-0024 藤井寺市藤井寺 3-1-20 (アイセルシュラホール 藤井寺市観光協会内)
TEL : 072-979-7881 FAX : 072-952-7806

藤井寺 観光 ボランティア 検索



第 26 号 2023 年 1 月

◆ << 令和 5 年 年初に向けて >>

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 坂谷 義彦

日頃より当会の活動にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

我々の所在する当地が念願の大阪初の世界文化遺産登録を実現してから早くも3年が経過しました。この間、多くのお客様のお越しを願っておりましたが、新型コロナウイルスの影響を受け忸怩たる思いで過ごしてきましたがようやく現時点(4年10月)では第七波も終息しつつあり、行動制限の無い平常活動に戻れるものと大いに期待し準備を整えております。

多くのお客様からも待ちかねたようにガイドやイベント活動にお申込みをいただいております。外に出て活動し健康に過ごしたいと思われる多くのお客様の思いが伝わってくる今日この頃であります。その思いをしっかりと受け止め、万全なる感染対策を実施しながら前に向かって行きたいと思っておりますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆ 「秋季ウォーク」シュラホールと葛井寺界隈を巡る 12月4日(日)

今年の秋季ウォークは12月4日(日)シュラホールから9時30分のスタートで行われた。

参加者40名、観ボラ34名。朝から肌寒く曇りがちの天気では参加者は伸びなかった。

私はD班、参加者7名、観ボラ5名について回ったが、こじんまりとして丁寧な説明がよくわかり楽しく回れた。まず藤の森古墳について山田先生の説明を聞き、シュラホール館内に入り30分、3階の会議室からの生駒や奈良方面の展望は見事であった。その後の仲哀天皇陵古墳も墳丘長245m、幅50mの濠を巡らせ、その景観の美しいご陵である。また、春日丘住宅は池や田のこの地に、大屋霊城が計画的に田園都市として開発した高級住宅地で立派な屋敷が並んでいる。



辛国神社に行くときまだ七五三の男児家族がお参りされていた。「大阪みどりの百選」で数十種の椿の木が植えられている。さらに葛井寺は西国三十三箇所観音霊場で、今、阿弥陀堂の再建と阿弥陀二十五菩薩の修復が進行中で、2025年完成見込みである。さらに魅力を倍増することだろう。

11時40分、ウォークが終わったところで雨が降ってきた。(小野)

◆ << これからの当会の催しとお知らせ >>

詳細は当会 HP. ⇒



◎ 梅まつり 2月11日~28日。 奉納俳句 2月19日迄。

◎ 春季ウォーク ◎ 藤まつり 4月 ◎ 郷土の歴史講座

◆ << 令和5年度にむけて >> 新幹事の紹介と抱負

副会長 桃井克夫

先の見えないコロナ戦争、実にひどい三年間でした。新型コロナウイルス、変異の繰返し、パンデミック、そして緊急事態宣言。対策はと言えば、自衛の防疫マスク、消毒、検温、ソーシャルディスタンス等々。四回目のワクチン接種で第七波が鎮静化している今、大きく転換の時です。

なにはともあれ、よく我慢し辛抱しました。さあ動き出しましょう！ウイズコロナの新生活様式で日常を取り戻して、巣ごもりからの脱出です。観ボラのガイド活動も活気づき始めています。心も体もリフレッシュし地元を歩き回しましょう。あれこれ出会い、未知との遭遇、再発見です。自分・家族・仲間の活性化が地域の活性化となります。

研修部 塩尻節夫

本年度から研修部幹事をさせていただいています。研修部の活動は、主に観ボラ会員の研修に関わる業務を行います。内容は、基本的にガイド活動に寄与するものとなります。

私が心がけたいことは、第一に、会員の興味・関心ごとを集約し、できるだけ皆様に満足して頂ける研修の機会を設けていくことです。次に、地域文化財の関係上古代史が多くなっていますが、視点を少し変えて古代史以外にも対象を広げても良いのかなと思っています。さらに地域発信の機会として「郷土の歴史講座」の充実・工夫を図るつもりです。

これらの活動は一人でできるものでなく、研修部一同で知恵を出し合って取り組みたいと考えています。

会計部 林 良和

会計部を引き継いでから半年、正直言って、私の能力不足を感じて、責任ある仕事に戸惑いました。

今は、何とか慣れてきました。それでも、幹事会のメンバーにもなるので、今まで、のんびりガイドしていたのに、幹事会の皆さんには、いろいろお世話になっていたのだと再認識しました。私達のボランティアガイドの会は、文字通りボランティアですから、皆様と共に楽しくガイドなどを行うことが基本です。

楽しく活動できるように、会計部としてバックアップすることを心掛けてまいります。

ホームページ・IT部 芳尾朋子

昨春ホームページ・IT部の幹事としてスタートいたしました。

ホームページでは観ボラ通信でのお知らせや会員の投稿によるナイスビューなどを毎回発信しております。私自身も散歩がてら近場の城山古墳の風景を投稿しております。

これからも会の活動及び藤井寺の四季折々の風景を紹介していきたいと思っていますのでみなさんもぜひご協力ご参加ください。

またこの秋にマップ作成も見直され、新たに加わったマップ作成メンバーも意欲満々。コロナ自粛解除後の活躍も期待されます。

◆ 古墳にコーフン♥ツアー

イオン藤井寺ショッピングセンターで11月3日・5日・6日催されたイベントのお手伝いです。

古代甲冑の重い方は当時と同じ約15kg。着るのも大変です。また、古代衣装を着て、可愛く変身した我が子の姿を写真に撮る微笑ましい様子も見られました。

他には勾玉作り、銅鏡作りも行いました。(松村)



◆ 藤井寺市指定有形文化財に

令和4年3月に葛井寺所蔵の阿弥陀如来と二十五菩薩が指定されました。

11月13日に記念講演会があり、阿弥陀二十五菩薩の造立と葛井寺との関係、また現在の修理状況や修理後についてのお話がありました。

2025年度に阿弥陀堂の再建と二十五菩薩の修復完成のお披露目が予定されています。



◆「地域の巨大古墳の様相を知る」 視察研修バスツアーに参加して

「美陵町民」にとって古墳とは神社の延長線上にあるような「御陵さん」の事であり、お山を含む神域のような場所でした。古墳が人工の土製建造物で、文字のない古墳時代の支配システムを可視化する為の威信モニュメントとして一貫した規格をもって、日本中に築かれたということを知ったのはつい最近の事です。全国で約 5,000 基ある前方後円墳の内、中でも墳丘長が 200m 以上の前方後円墳の築造は、墳丘の規模が持つヤマト政権における政治的重要性をより顕在化している周縁勢力の本貫地域で営まれました。



岡山県造山第5号墳(千足古墳)

8回に渡る研修ツアーは奈良盆地、和泉、河内、摂津はもとより、伊勢、山城、丹後、播磨、吉備、尾張に存在する巨大古墳を巡り、周縁豪族がその実権を誇示していた軌跡を辿るだけでなく、其々の古墳が持つ特性や変遷、現地の地理、被葬者に代表される地域勢力の政治背景を総合的に考察できる素晴らしい機会でした。(辻岡)

◆世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」登録3周年記念古市古墳群ウォーク

《道明寺天満宮スタート コース》 10月23日(日) 担当：足立 敦子&安田 啓子
目覚めると青空、気分が良く適度な緊張感もあって、どのような方にお会いできるか楽しみです。

天満宮からの受付は藤井寺市役所の職員。13名の参加です。世界遺産担当の山田さんが天満宮の説明をしてくださり、又、唐櫃山古墳の発掘調査の現地説明会が有り、時間調整をして、説明を聞くことができました。



藤井寺市・羽曳野市のガイド各4名が、初めてご挨拶をして2班に分かれ1班7~8名での出発です。人数が少ないので道中は、ばらけることなく歩けました。時間配分も決めていたので、すり合わせながら、予定通り進みました。今回、食事場所の混雑や見学場所での待ち時間等が気になっていましたが、スムーズでした。両市役所の職員も所々におられて、声をかけて頂いたり、場所によっては説明をしてくださいました。無事、ゴールまで事故もなく予定通り到着出来たことで、まずは一安心しました。

《古市駅東広場スタート コース》 10月23日(日) 担当：石田 和雄&森 芳明
古市駅東広場を参加者42名5班編成の第1班で9時半に出発しました。

峰塚公園内の路面が青色は壕域のことだった。浄元寺山古墳は墳頂に登って見学。応神さんの参道で女の子がこけて膝から血が、観ボラ支給品の絆創膏を貼って止血しました。

サー！次は藤井寺で見せ場の『古室山古墳』に。史遊会さんはお墓なのであまり登らないと言われる。後円部の真ん中は埋葬施設なので真ん中を外して説明しますとおことわりして、墳丘の説明を行い藤井寺自慢の遠望を楽しんで頂いた。仲姫命陵古墳では壕の深さや景色に『オー』と感激されていた。

天満宮境内案内後に中門前でタイムオーバーの16時になったが、お疲れ様でしたと挨拶して解散。「お客さん喜んでくれたかな?」「約8kmのウォークで疲れたんちがうかな?」

大井誓願寺の南に、志疑神社があります。

古くは『延喜式』に載っている志貴神社(シキ)だったようですが、惣社の志貴県主神社に憚って志疑神社にしたという説があります。

御祭神は素戔鳴尊(初めは牛頭天王だったのでしょう)と菅原道真公です。明治39(1906)年の勅令以降、北條の黒田神社の預かりになっていたのは、志紀首(シキノオビト)の氏神である神八井耳命(カムヤイミミノミコト)が御祭神であったかもしれないのですが、昭和21年、大井の村社として復帰しました。

志疑神社境内の発掘調査では、大井(廃)寺のものと思われる軒丸瓦が発見されていて、衣縫(廃)寺や飛鳥寺の軒丸瓦と同じものだと言われています。

志疑神社の境内には薬師堂が祀られていて、この薬師堂(香積山(コウシャクサン)常楽寺奥ノ坊)は志疑神社の神宮寺で、神仏習合が残っている稀有な例です。神社と仏閣は、明治の神仏分離令によって別々にされ、例えば道明寺というお寺と道明寺天満宮という神社は本来同一のものであったにもかかわらず別の敷地に分離されて今のような形になってしまいました。 つづく

前号の一部訂正です。3行目「源頼朝の家来」とあるのは「源頼朝の御家人」と訂正します。

古墳のある風景 16 『流浪の王子』 川上 恵 エッセイスト

王権を手中にするためには、身内で殺し合うことも稀ではなかった古代にあって、天皇の座を譲り合う麗しい兄と弟がいた。

父を雄略天皇に殺された幼い兄弟は、身分を隠し播磨の国に隠れ住んでいたが、世継ぎをするものが無く、どちらかが即位することになった。

辛苦を共にし、助け合って生きてきた兄弟は、互いに譲り合った末、まずは弟が、そして弟亡き後は兄が天皇となった。顕宗天皇と仁賢天皇である。

「兄上、雄略の陵を暴いて父の仇を討とうではありませんか。辱めを与えるのです」

弟・顕宗の言葉に、「その役目は我が」と、深夜兄はたった一人で陵に向かった。

そして、手の平に乗るだけの土を持ち帰った。いぶかる弟に、

「かりそめにも、そなたを天皇にして下さった方の父君ではないか。辱めてはならぬ」

仁賢天皇陵は、そんな美しい物語を持つ古墳である。

前方部の側には、古市大溝と呼ばれる運河の名残と下田池が広がっている。

池越しに見る古墳は、お椀を伏せたように愛らしい。

真正面には二上山。なんとも長閑で、心安らぐ水辺の光景だ。

ぽちゃんぽちゃんと、細波の打ち寄せる音が聞こえる。

黒い水鳥が漂っている。なぜか私の後をついてくる。

ごめんね、餌はないんだよ。



仁賢天皇陵古墳

仁賢天皇が眠る墓所から雄略天皇の陵は、ごく近い。

その濠は豊かな水をたたえ、小高い墳墓は緑深い樹々に覆われ、風格ある佇まいだ。若き日の兄の英断の賜物である。

そして、兄を慕ったあの懐かしい弟は、二上山の東方に眠っている。

完